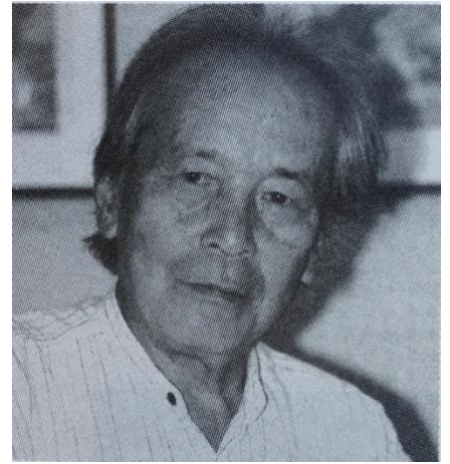


1921(大正 10)年～2012(平成 24)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

1921(大正 10)年、新潟市に生まれ、1974(昭和 49)年より狭山市に在住。印刷版下画工、看板工を経て、新聞社、広告代理店、出版社、食品会社でグラフィックデザイン、イラストレーションの仕事に携わる。

2000(平成 12)年、狭山市美術家協会会員として、文化団体連合会主催「第 1 回狭山市民芸術祭」にて舞台美術担当以降、10 周年記念公演まで数々の作品を提供し活躍する。狭山市民会館小ホールホワイエ展示「喜怒哀楽面」は第 5 回芸術祭の舞台にて使用し寄贈されたもの。現在も常設展示されている。また狭山市内小中学校及び図書館の企画にて、ダンボールで作るお面の工作等の指導にあたり、教育の分野においても多々貢献した。



2. 主な業績

- ・1983(昭和 58)年、氏が創始したペーパーレリーフの手法での「マザーグースメロディ」発表以後、「ティル・オイレンシュピーゲル」、「グリム童話の世界」、「宮沢賢治童話の習作」、「クリスマス童話展」などの個展を各地で開く。
- ・1996(平成 8)年、「絵本グリム童話の森」シリーズ第 1 弾『ラプンツェル』(パロル舎)発刊を機に、グリム童話の世界 60 点をグリムの里いしばし「グリム館」に常設。
- ・2012(平成 24)年 3 月から 2014(同 26)年 8 月まで、NHK サービスセンター主催「没後 80 年宮沢賢治 詩と絵と宇宙一雨ニモマケズの心展」(日本全国で開催)にて、偕成社発刊の絵本『虔十公園林』の原画が巡回展示される。
- ・2016(平成 28)年、没後初めて狭山市立博物館にて「神わざペーパーレリーフ展」開催。(ドイツ文学者・グリム童話翻訳者・天沼春樹氏、表現教育児童指導者・打揚真理子氏協力)
- ・主な出版物
日本童話名作選 宮沢賢治作品『虔十公園林』偕成社
絵本 グリム童話の森①『ラプンツェル』パロル舎
シリーズ親と子で作る 25『ペーパーレリーフ』創和出版
シリーズ親と子で作る 26『ダンボールでつくるお面』創和出版



がちょうばんの娘

3. 特筆

ペーパーレリーフとは、0.3～0.5 ミリほどのボール紙を部分部分のチップに切り抜き、高低を付けて何層かに貼り合わせる。自称“廃物利用の紙細工”と。着色は下塗りに基底溶剤を用い、彩りは木工着色塗料で、絵画絵具は一切使っていない。塗料を塗っては拭き払い、塗り重ねて磨きあげていく製法である。用具はカッターナイフ一丁に糊。(伊藤 亘氏「手前ミソのひとつ」参考)